
2023年9月期 上期 決算説明資料

2023年 5月12日
株式会社 学研ホールディングス

INDEX

エグゼクティブサマリー	…… P.03
2023年9月期 上期決算概要	…… P.10
教育分野 上期期決算	…… P.15
医療福祉分野 上期決算	…… P.20
中期経営計画 Gakken2023 進捗	…… P.26
決算補足資料	…… P.34

2023年9月期上期決算 エグゼクティブ サマリー

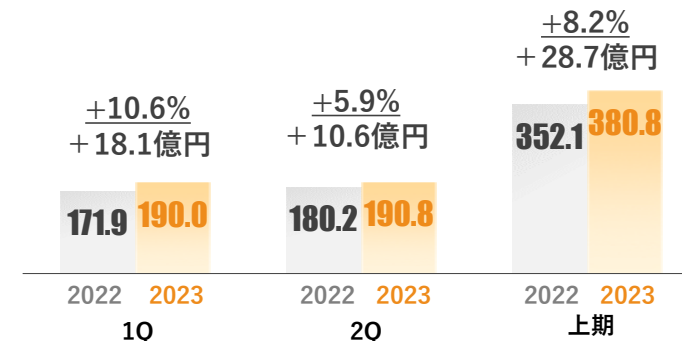
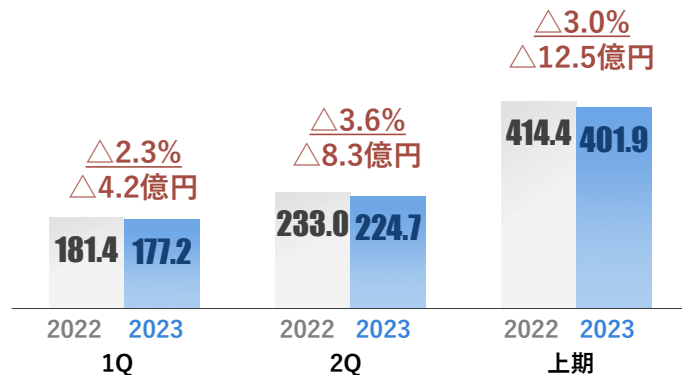
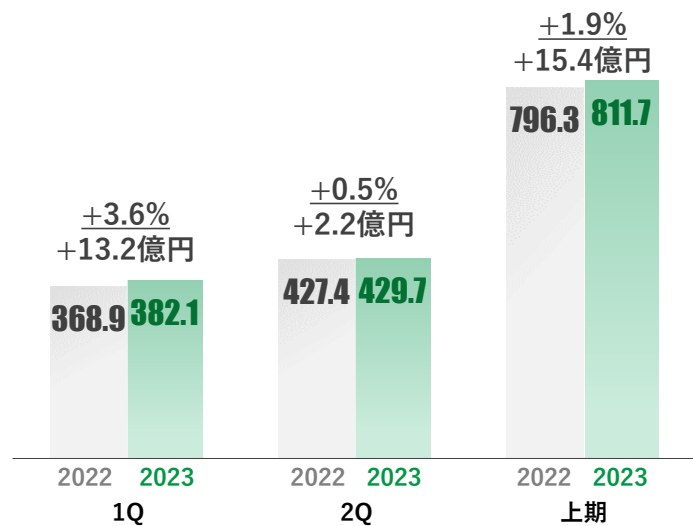
2023年9月期上期決算 エグゼクティブサマリー

売上高	: 811.7億円 (前期比+1.9%)
営業利益	: 32.2億円 (前期比-25.4%)
経常利益	: 32.7億円 (前期比-25.6%)
四半期純利益	: 12.4億円 (前期比-51.4%)

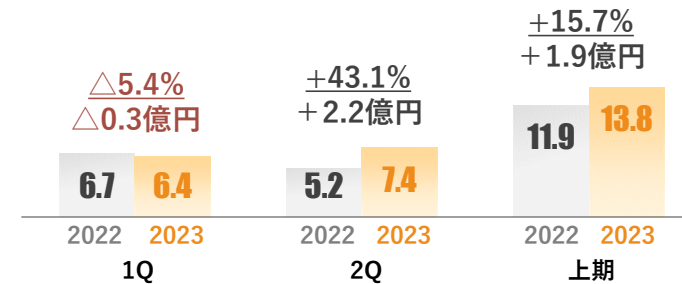
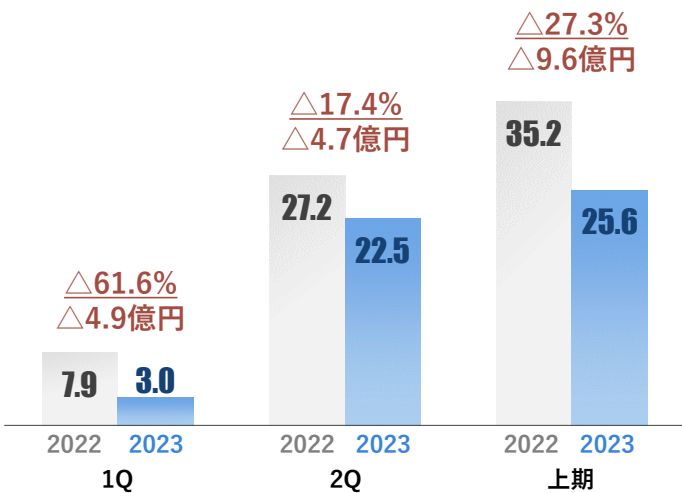
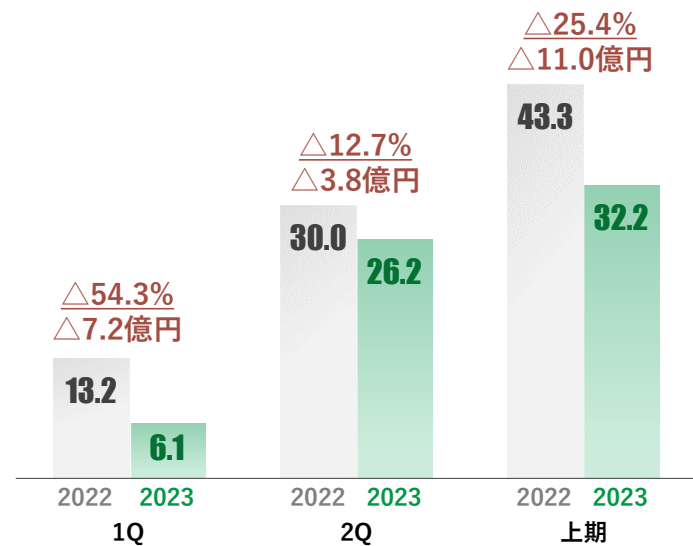
- ・ 連結売上高 : 医療福祉分野の増収が牽引し、上期累計で1.9%増収
- ・ 営業利益 : 対前期1Q : -54.3%、2Q : -12.7%、
上期累計では-25.4%の減益
出版事業と園・学校事業の事業環境悪化と
原価高、円安等が影響
- ・ 経常利益 : 営業利益減に伴い減益
- ・ 四半期純利益 : 営業利益減と政策保有株式の評価損(-6.8億円)により減益

売上高・営業利益の推移と前期比

【売上高】



【営業利益】



【グループ合計】

【教育】

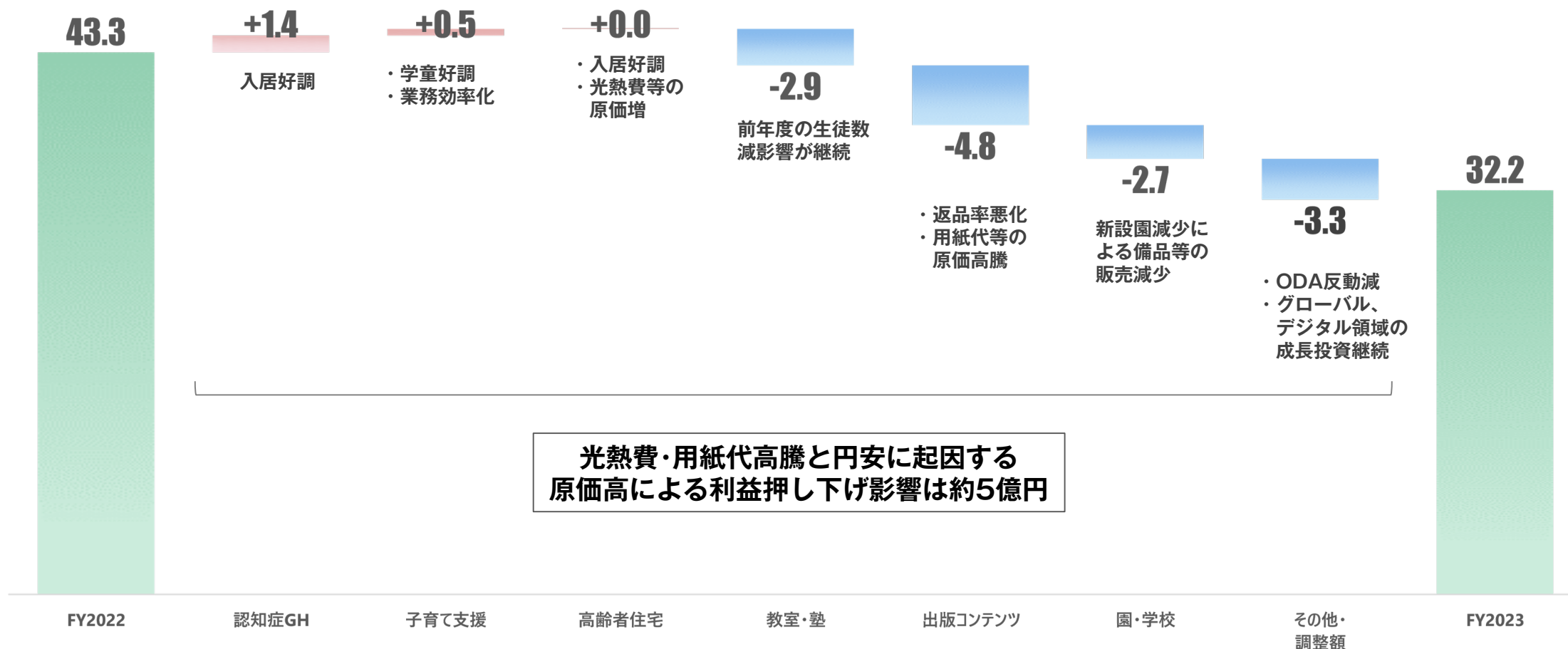
【医療福祉】

※単位未満は四捨五入です。

上期 営業利益 増減分析

単位：億円

出版事業における販売減、返品率悪化、原価高を主因に減益









※単位未満は四捨五入です。

【教育分野】 上期主要取組と直近トレンド

コロナ禍を経て“進化した教育事業”を展開

3年に亘ったコロナ禍において、学研グループでは「学習の制約」を打開するための様々な挑戦を推し進め、トライ&エラーを繰り返しながらサービスを育成してきました。コロナ禍が教育にもたらした最大の変化はDXの加速です。教材はもとより学習の場やコミュニケーションまでDXすることで、誰もが、どこからでもアクセスしやすい学習をデザインしています。

教室・塾	<p>学習モチベーションを維持しやすいオンラインサービスが好評</p> <ul style="list-style-type: none">-オンラインで少人数国語指導を行う「ことばパーク」やViSC（バーチャル・スマート・キャンパス）の利用者が増加-周囲とのコミュニケーションにより刺激を受けながら、意欲的に学べるのが特長	  <small>※FAMcampusは、富士ソフト株式会社の登録商標です</small>
学校	<p>世界を体感できる語学事業に注力</p> <ul style="list-style-type: none">-外国人講師によるオンライン英会話レッスン「Kimini」の導入校増加-プロジェクションマッピングやVRなどで“海外空間”を演出する体験型英語学習施設「TOKYO GLOBAL GATEWAY」の学校予約伸長	 <small>学研のオンライン英会話</small>  <small>BLUE OCEAN</small>
社会人	<p>急拡大するリカレント・リスキリング市場向けプロダクトも登場</p> <ul style="list-style-type: none">-スマホで手軽に資格取得の学習ができる「Shikaku Pass」を4月にローンチし、順調な滑り出し	
グローバル	<p>現地パートナーとの提携により東南アジア展開を加速</p> <ul style="list-style-type: none">-ベトナムでは、英語教科書市場で30%以上のシェアをもつDTP社と資本業務提携を締結-今後、DTP社をハブとして東南アジアへの事業拡大を進める	

【医療福祉分野】 上期主要取組と直近トレンド

積極的な「新規開発」でシェア拡大！ 主要KPIも新たなレベルに到達

医療福祉分野では積極的な新規開設で市場を牽引し、収益を拡大しています。光熱費や食材費など物価高影響はあるものの適切なコストマネジメントにより「医療福祉のトップカンパニー」への歩みを着実に進めています。

サービス付き高齢者向け住宅

- 上期は光熱費や食材費など物価高騰影響もあり、利益は前期並みとなったが入居率は過去最高水準で推移
- 下期には10,000居室に到達する見込み



地域社会の多世代交流に貢献する複合拠点も展開。10,000居室を見据える

認知症グループホーム

- 今期12～15棟の新規開設計画に対し、上期6棟を新設し順調に進捗
- 4月開設分を含めて300棟を突破



愛の家シリーズで、全国に300棟以上を展開

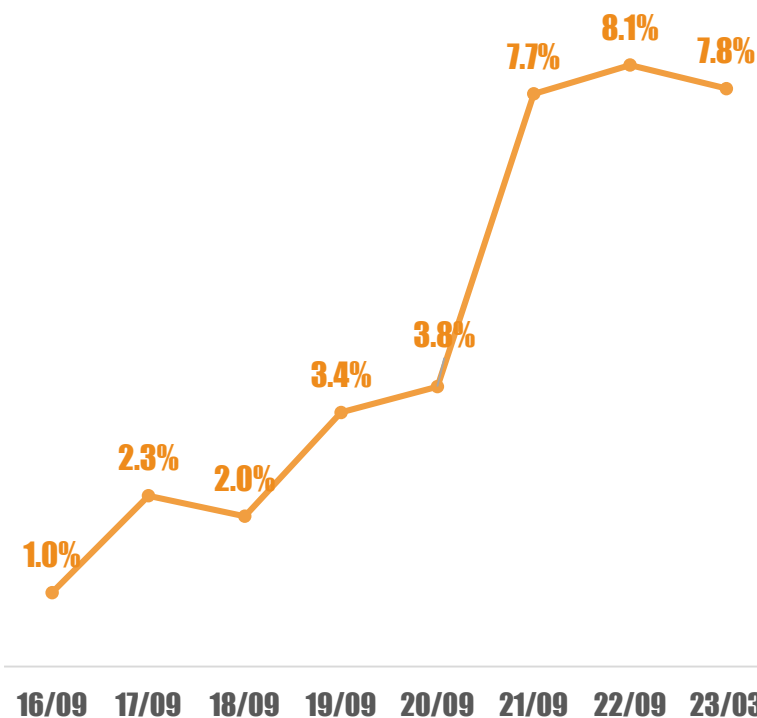
子育て支援事業

- 学童の運営受託件数が伸長
- 今後一層の需要拡大が見込まれることから「学研グループの学童」の魅力を高める取組も推進
- 3月には学童特化型コンテンツプラットフォーム「放課後たのしーと」を事業譲受



学童は首都圏を中心に27カ所を展開

【業界全体の施設増加数における当社シェア】



※国土交通省ホームページ <https://www.mlit.go.jp>
サービス付き高齢者向け住宅の登録状況を参照のうえ作成
※ 2023年3月実績は2022年10月からの6か月間での集計です

下期 挽回策

- ・ グループ全体でのコスト削減
- ・ 幼児向けサービス・商品の需要拡大傾向を捉えアップセル強化
- ・ 主要／成長分野を中心にコンテンツ事業の収益力回復
 - マーケティング強化
 - リカレント・リスキリング商材の積極導入
- ・ 医療福祉事業では入居営業強化とコストコントロールによる利益向上
- ・ 政策保有株縮減・非事業資産売却

2023年 9月期 上期決算概要

2023年9月期 上期決算 連結業績サマリー

※単位未満は四捨五入です。

売上高

811.7 億円

前年同期比

1.9% ↑

医療福祉分野の新規店積極開設で増収継続

営業利益

32.2 億円

前年同期比

25.4% ↓

出版事業での返品率悪化、円安等に起因する原価高を吸収しきれず

経常利益

32.7 億円

前年同期比

25.6% ↓

営業利益減に伴う減益

EBITDA

46.5 億円

前年同期比

19.3% ↓

営業利益減に伴う減少

四半期純利益*

12.4 億円

前年同期比

51.4% ↓

営業利益減と政策保有株式の評価損が主因

※親会社株主に帰属する四半期純利益

1株あたり中間配当金

12.5 円

前年同期比

+0.5円 ↑

配当性向30%を維持。当初予想通りに増配

2023年9月期 上期セグメント別業績サマリー

単位：億円

セグメント	事業	FY2022 上期実績		FY2023 上期実績		増減（対前期）	
		売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
教育分野		414.4	35.2	401.9	25.6	△ 12.5	△ 9.6
	教室・塾	158.6	6.8	153.6	3.9	△ 5.0	△ 2.9
	出版コンテンツ	170.9	22.9	168.2	18.1	△ 2.7	△ 4.8
	園・学校	84.9	7.1	80.1	4.4	△ 4.8	△ 2.7
	のれん	-	△ 1.6	-	△ 0.8	-	+0.8
医療福祉分野		352.1	11.9	380.8	13.8	+28.7	+1.9
	高齢者住宅	156.2	4.6	174.2	4.6	+18.0	+0.0
	認知症グループホーム	167.7	9.5	175.9	10.9	+8.2	+1.4
	子育て支援	28.2	0.1	30.7	0.6	+2.5	+0.5
	のれん	-	△ 2.3	-	△ 2.3	-	△ 0.0
その他		29.8	5.3	29.0	2.9	△ 0.8	△ 2.4
調整額		-	△ 9.2	-	△ 10.1	-	△ 0.9
グループ合計		796.3	43.3	811.7	32.2	+15.4	△ 11.0

※単位未満は四捨五入のため、合計値が合わない箇所があります。

2023年9月期 第2四半期 (単期) セグメント別業績サマリー

単位：億円

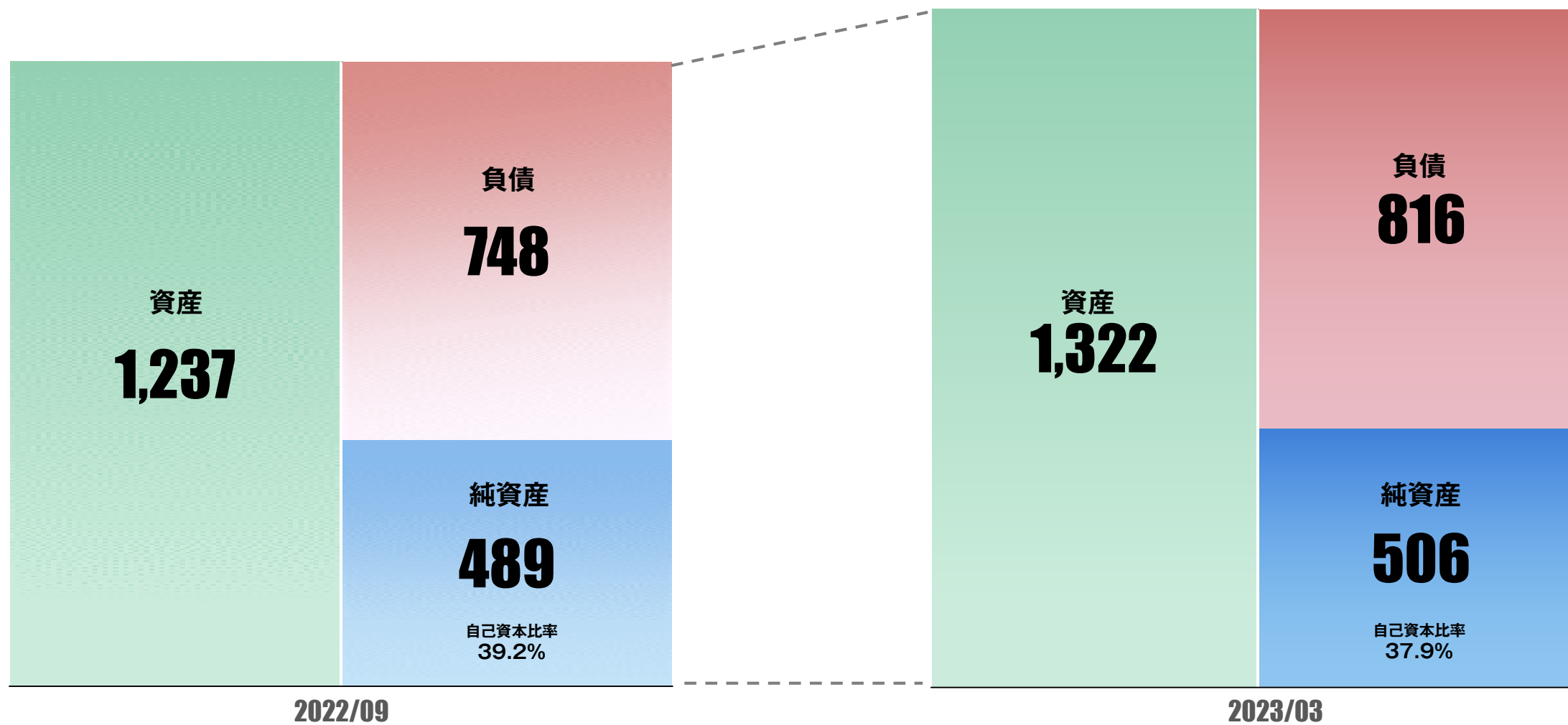
セグメント	事業	FY2022 2Q (単) 実績		FY2023 2Q (単) 実績		増減 (対前期)	
		売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
教育分野		233.0	27.2	224.7	22.5	△ 8.3	△ 4.7
	教室・塾	79.2	0.2	76.9	△ 0.9	△ 2.4	△ 1.1
	出版コンテンツ	103.8	21.0	101.8	19.9	△ 2.0	△ 1.2
	園・学校	50.0	6.7	46.0	3.9	△ 4.0	△ 2.8
	のれん	-	△ 0.8	-	△ 0.4	-	+0.4
医療福祉分野		180.2	5.2	190.8	7.4	+10.6	+2.2
	高齢者住宅	82.0	2.3	87.3	2.8	+5.3	+0.6
	認知症グループホーム	83.7	4.2	87.5	5.4	+3.8	+1.2
	子育て支援	14.5	△ 0.1	15.9	0.4	+1.4	+0.5
	のれん	-	△ 1.2	-	△ 1.2	-	±0.0
その他		14.3	2.6	14.2	1.4	△ 0.1	△ 1.2
調整額		-	△ 5.0	-	△ 5.1	-	△ 0.1
グループ合計		427.4	30.0	429.7	26.2	+2.2	△ 3.8

※単位未満は四捨五入のため、合計値が合わない箇所があります。

連結財政状態

単位：億円

新学期商戦に伴う運転資金増で資産増加



※単位未満は四捨五入です。

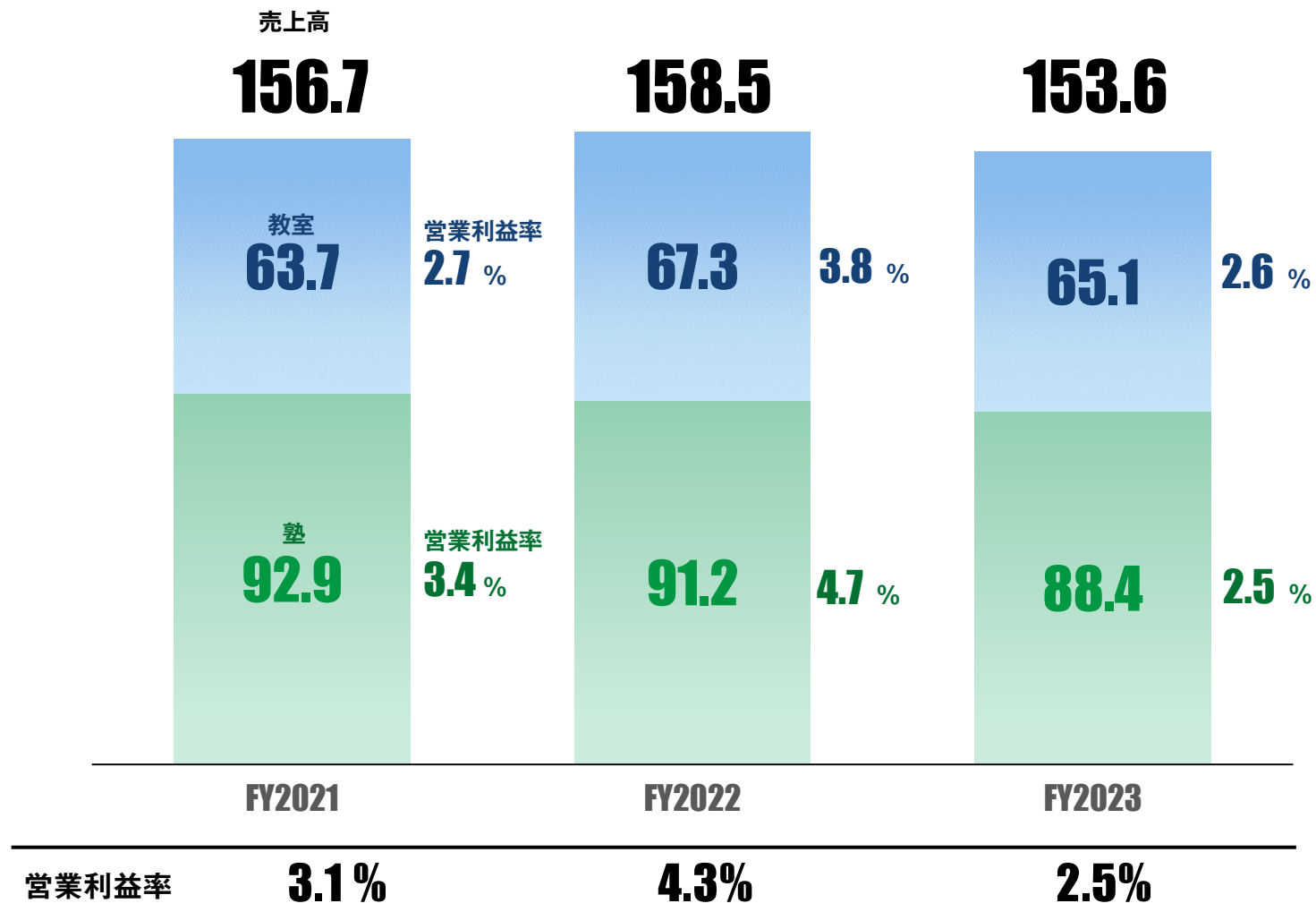
教育分野 上期決算

幅広く子どもたちの学習を支援する3事業を展開。社会人向けのサービスも拡充しています。

- 1)教室・塾事業…………… 日常学習を支援する幼児教室・学研教室に加え、各地で進学塾を運営
- 2)出版コンテンツ事業… 児童書、学習参考書等の出版物や、eラーニング等を制作・販売
- 3)園・学校事業…………… 幼保園等への物販や教科書・教材の制作・販売。企業向け研修も展開

教室・塾事業 上期決算サマリー

単位：億円



ポジティブ要素

- ・ 幼児教室開設数：前期比49教室増
- ・ 家庭教師派遣・個別指導の学研エル・スタッフィング好調
- ・ バーチャル・スマート・キャンパス (ViSC) の導入順調

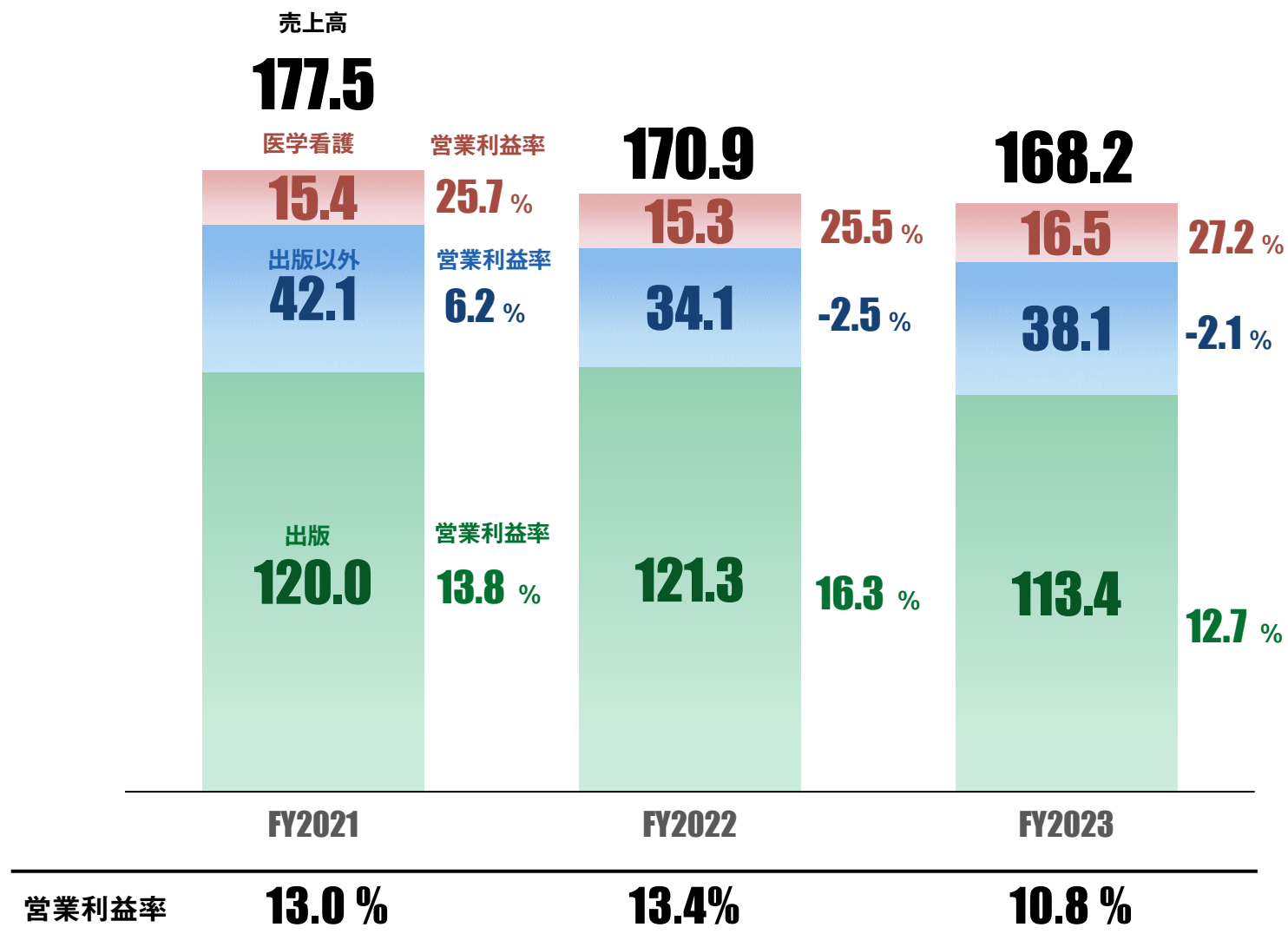
ネガティブ要素

- ・ 会員・生徒数の回復に遅れ。前期比で教室：3.8%減 塾：2.1%減
- ・ 新規教室開設苦戦：前期比370教室減
- ・ 物価高影響で入塾様子見傾向
進学塾の業績に影響

※単位未満は切り捨てです。

出版コンテンツ事業 上期決算サマリー

単位：億円



ポジティブ要素

- ・ (株)地球の歩き方の地図ガイド本が好調継続
- ・ 看護師eラーニング事業の業績順調
- ・ オンライン英会話事業好調

ネガティブ要素

- ・ 書籍返品率は前期比で3.5%悪化
前期：18.2%→当期：21.7%
- ・ 主要ジャンルの販売低調
1Qの不振が新学期商戦まで継続
- ・ 児童書は成長鈍化傾向
- ・ 学習参考書はトップシェア維持も頭打ち傾向
- ・ トイ市況低迷
- ・ 円安などによる原材料費や物流費等のコスト上昇

※単位未満は切り捨てです。

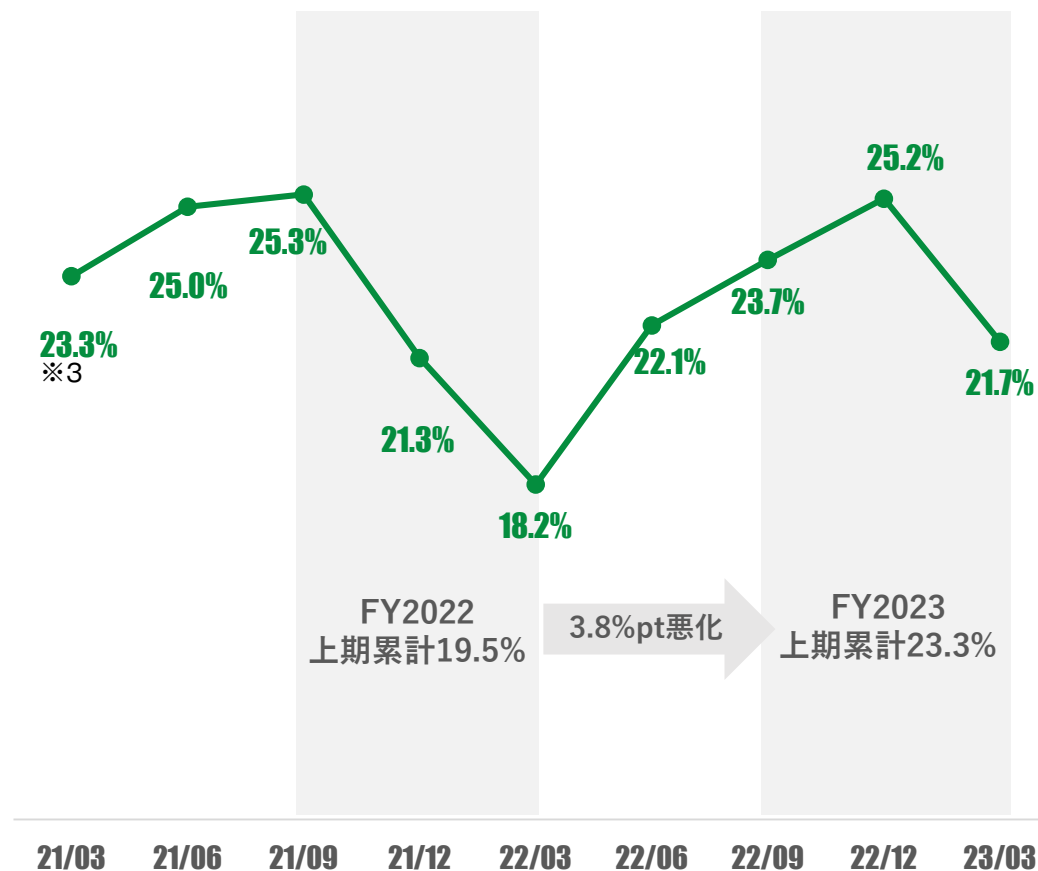
出版事業 書籍新刊点数／返品率

「地球の歩き方」が牽引する実用書ジャンルの発刊増。返品率は前期比で3.5%悪化

上期累計 書籍新刊点数 ^{※1}

	21/03	22/03	23/03
児童書	95	99	82
学習参考書	93	94	97
実用書 ^{※2}	87	85	123
ムック	16	16	13
その他書籍	50	71	80
合計	341	365	395

書籍返品率 ^{※1}



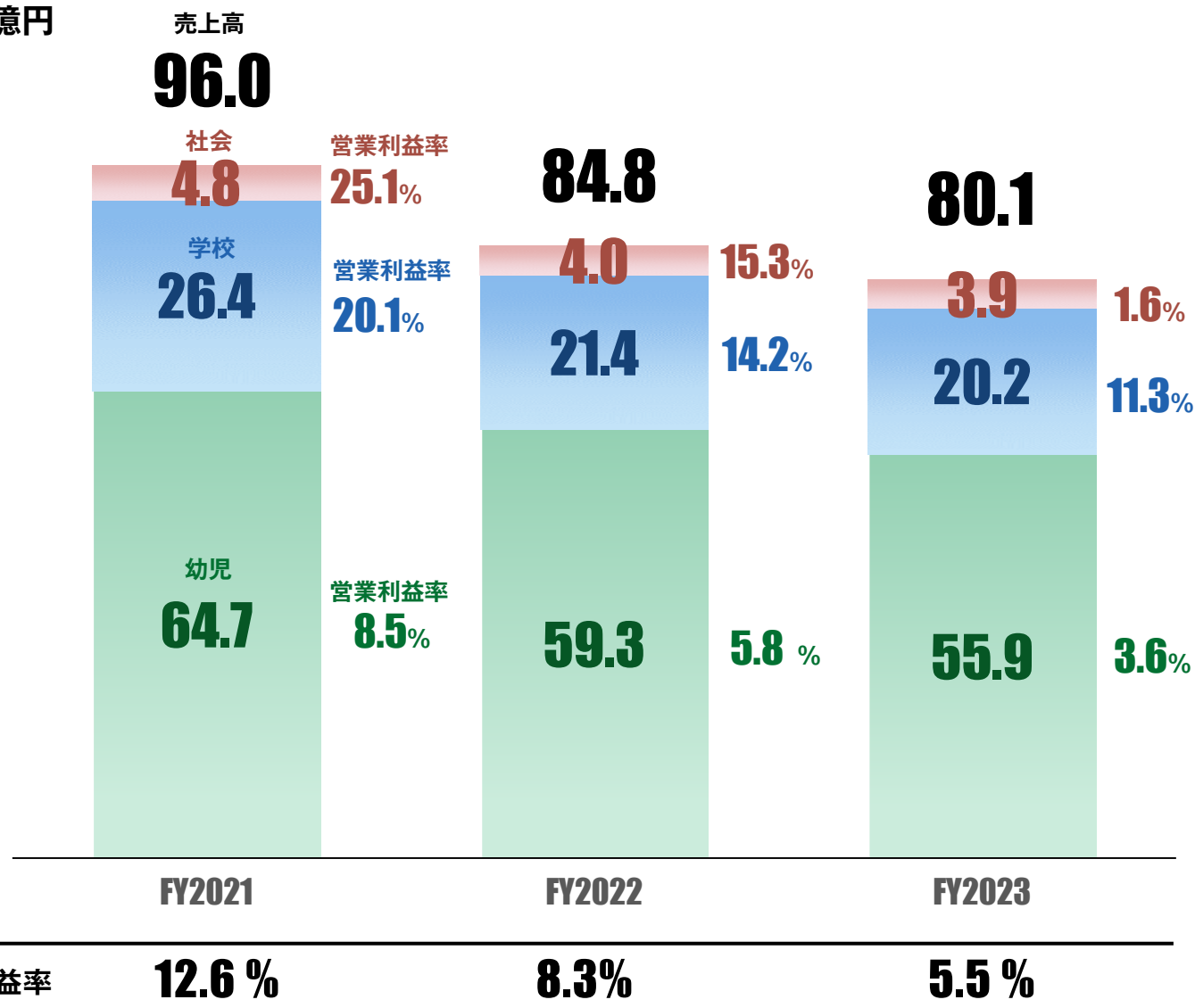
※1 書籍（雑誌は含まず）発行点数及び返品率は(株)Gakken と (株)地球の歩き方の合算です。(株)文理の数値は含みません。

※2 (株)地球の歩き方の実用書新刊点数について：2021年グループイン当初の発行所・発売元変更に伴う新刊発刊は、同年の実用書新刊点数から差し引いています。

※3 従来の開示資料の数値に誤りがあり、2021年3月の返品率を26.3%から23.3% に訂正しました。他の時点の数値に変更はありません。

園・学校事業 上期決算サマリー

単位：億円



ポジティブ要素

- ・園向け主力商材 月刊「つながるえほん」が新年度商戦で好調 前期比5%の増収
- ・保育ICTシステム「ハグモー」順調
- ・小学道徳・保健体育の2024年度採択シェアアップ、教科書指導書売上獲得に向け営業力強化

ネガティブ要素

- ・教科書改訂端境期のため教師用指導書の売上なし
- ・新設園減少に伴い、園向け大型遊具・備品受注が低調

※単位未満は切り捨てです。

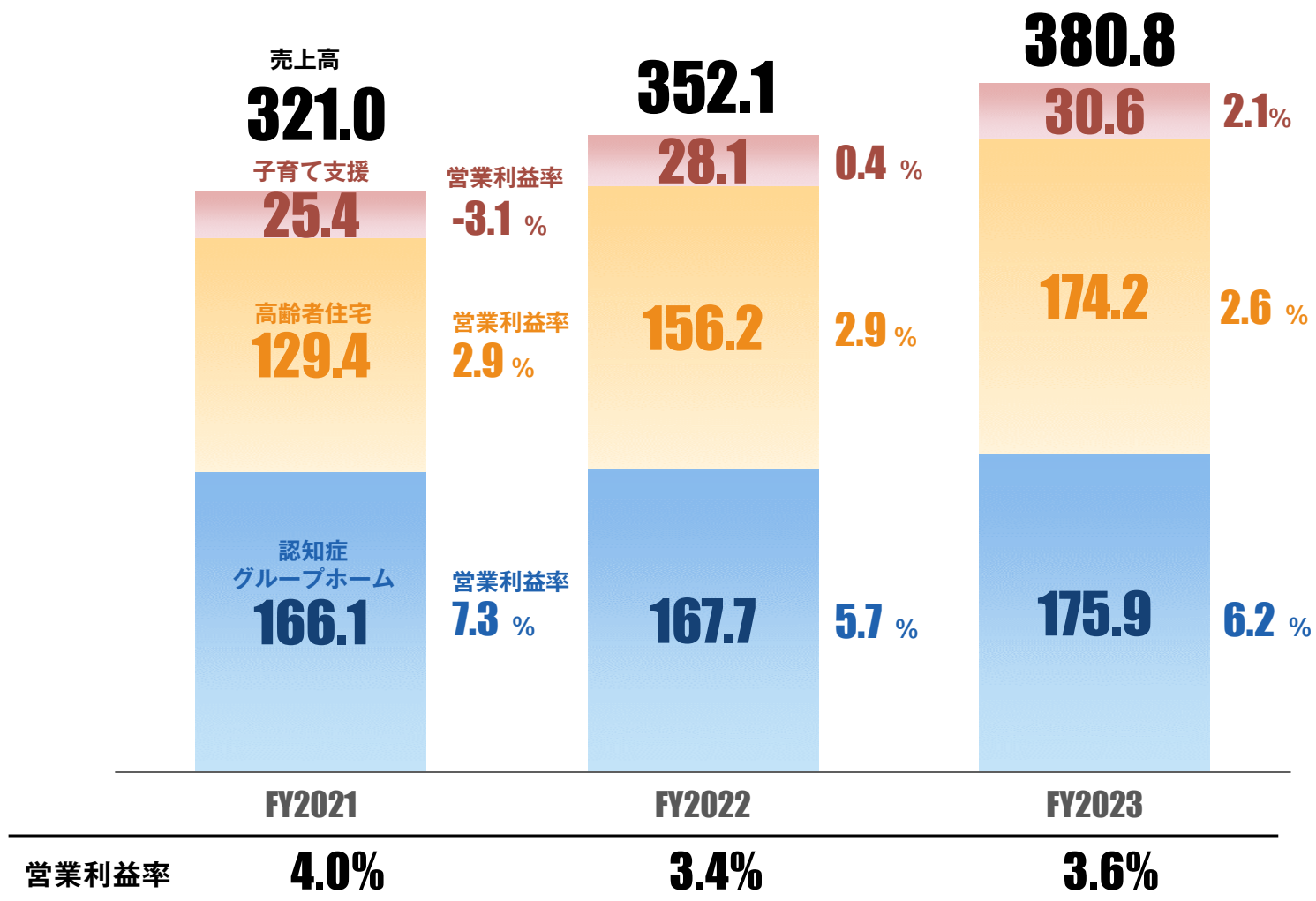
医療福祉分野 上期決算

3つの事業で少子高齢化の社会課題に挑み、多世代が安心して暮らせる街づくりを進めます。

- 1)高齢者住宅事業 … サービス付き高齢者向け住宅、介護サービス拠点等の企画・開発・運営
- 2)認知症グループホーム事業 … グループホームの運営や関連サービスの企画・開発・運営
- 3)子育て支援事業 … 保育園・子ども園・学童施設・児童発達支援施設等の企画・開発・運営

医療福祉分野 上期決算サマリー

単位：億円



ポジティブ要素

- ・新規開設順調
 - 高齢者住宅（2事業所）
 - 認知症GH（3事業所）
- ・入居率、充足率は高水準で推移
 - 高齢者住宅 95.4%
 - 認知症GH 96.9%
 - 保育園 92.8%

ネガティブ要素

- ・光熱費の高騰によるコスト増（既存店比較で前期比約5.4億円増）
- ・建設費高騰に伴う新規開設ペース減速懸念
- ・食材費等物価高騰に伴うコスト増

※単位未満は切り捨てです。

新規開設計画と進捗

- ・高齢者人口の増加に伴う需要増に対応するため、積極的な新規開設計画ペースを維持
- ・一定数を自社開発からM&Aにシフトして開設数を積み増し、当期見通しの上積みを目指す

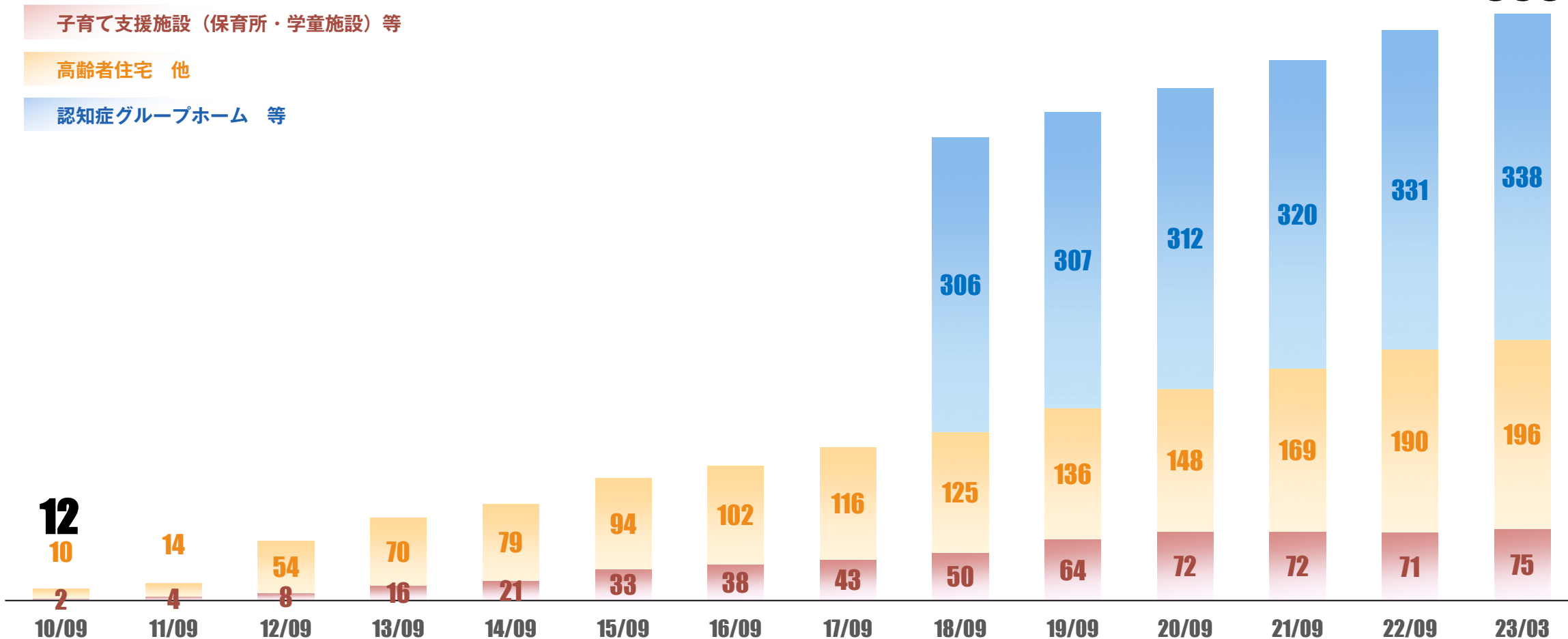
単位：開発数

	FY2022	FY2023				
	通期開設実績	1Q実績	2Q実績	上期実績	通期見通	進捗
高齢者住宅	21 事業所 (22棟)	4	2	6	16~22	37.5%
認知症 グループホーム	11	3 M&A:1件含	4 M&A:1件 海外拠点1件含	7 M&A:2件 海外拠点1件含	12~15	58.3%
子育て支援施設	3	4	0	4	4	100%
合計	35	11	6	17	32~41	53.1%

※子育て支援施設は保育園・学童施設・児童発達支援施設・子育てステーションの合算です。
 ※記載の数値は、同期間の閉鎖数を差し引いていません。

拠点数

各事業とも新規開設順調。子育て支援施設は、主に学童の運営受託により増加

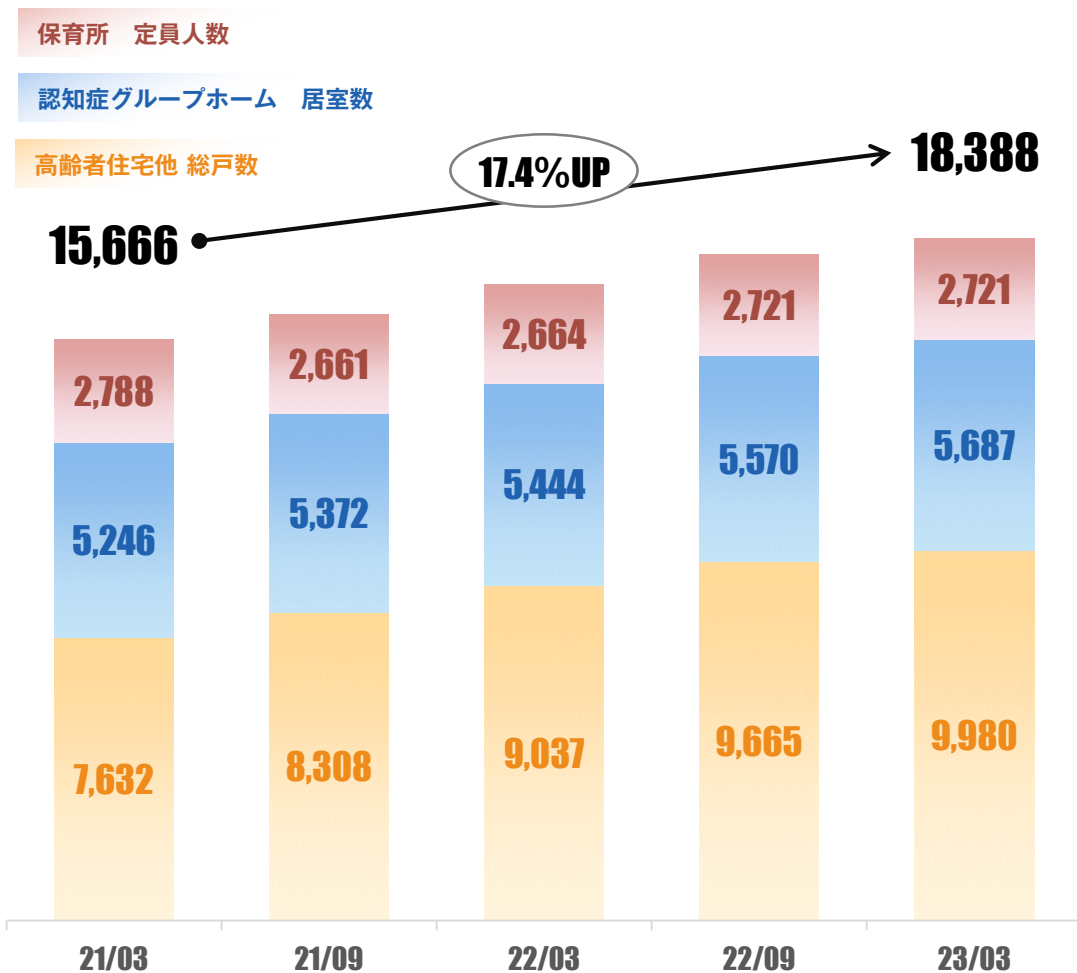


609

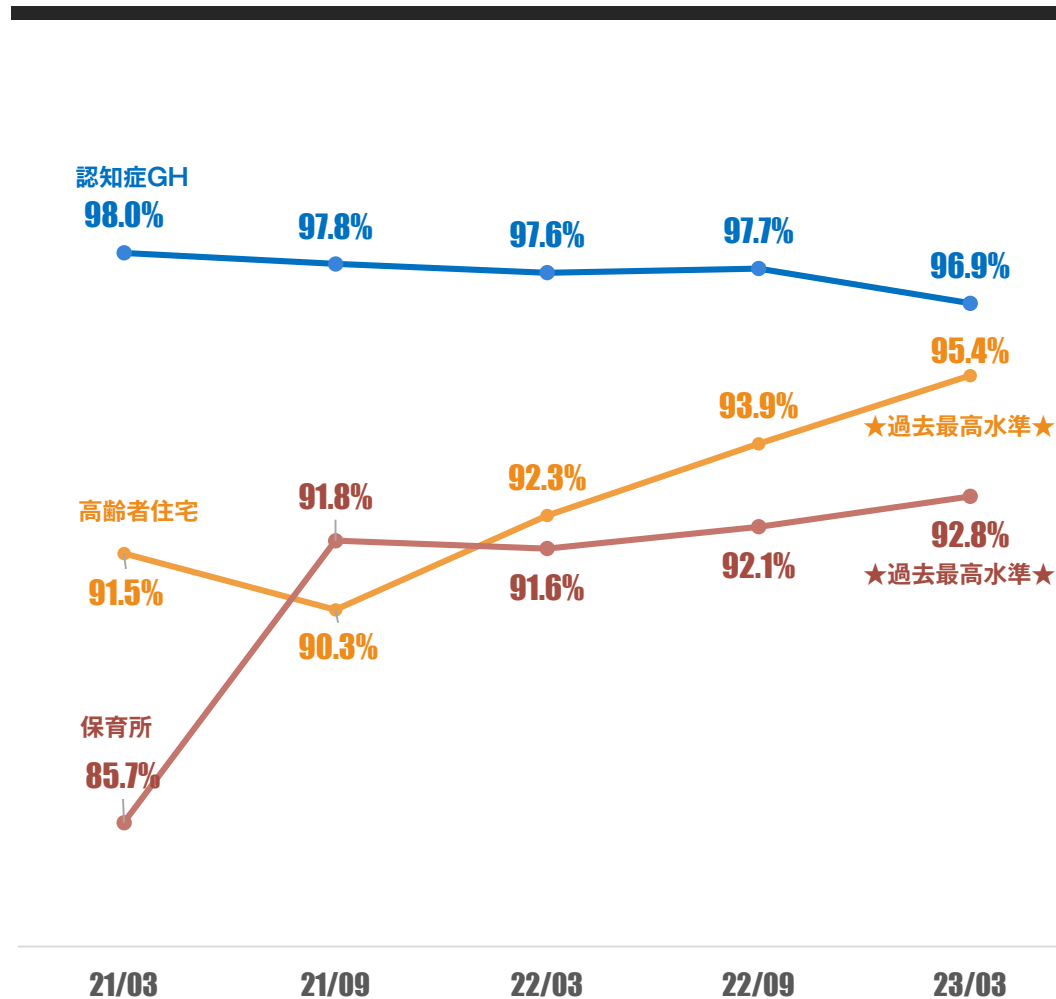
※記載の数値は新規開設数と閉鎖数の差し引きです。

医療福祉分野 キャパシティ拡大と稼働状況向上

総戸数・居室数・定員数推移



入居率・充足率推移



上期 決算総括／下期に向けて

- ・ 上期は出版事業の減速・原価高がグループ全体の減益に影響
- ・ 下期は出版コンテンツ事業立て直しに向けた取組を加速
同時に医療福祉分野での増益の他、全社でのコスト削減施策を実施
- ・ 現状、通期見通しは変更なし
- ・ 計画通り12.5円の間配当を実施（計画通り）

【教育分野 下期施策】

- 教室・塾事業 …幼児教室、オンラインコースを拡大し、会員・生徒数増とアップセル強化
- 出版コンテンツ事業 …リカレント分野の刊行加速。適正送品による返品率改善
- 園・学校事業 …営業体制を強化し、園向け月刊えほんの周辺商品を増売
- グローバル・デジタル…人材強化と成長投資継続。提携先との協働により収益力向上を急ぐ

【医療福祉分野 下期施策】

- 高齢者住宅事業 …過去最高水準の入居率を維持。原価高は価格転嫁により一定程度吸収
- 認知症GH事業 …M&Aで新規開設加速の計画。価格改定推進・コストコントロール強化
- 子育て支援事業 …定員充足率を向上

Gakken2023

進捗報告

中期経営計画 Gakken2023

「揺るぎない成長基盤の確立」

教育

新たな学びの創造と
多様な学習機会の創出

医療福祉

トップカンパニーを目指し
持続可能な街づくりに貢献

DXの加速とグローバル展開

グループガバナンスの強化と資本コスト経営

・
・
・
**持続的な
企業価値向上**

Gakken2023 3か年の業績推移

21年9月期は売上・利益とも計画を達成

22年9月期はオミクロン株感染拡大や光熱費高騰等の影響により収益とも計画未達ながら、増収増益は維持

23年9月期（最終年度）の営業利益計画を、75億円から67億円に下方修正（22年9月末時点）

単位：億円

連結	2021年9月期		2022年9月期		2023年9月期		2023年9月期 上期	
	計画	実績	計画	実績	当初計画	見通し	実績	進捗率
売上高	1,460	1,503	1,570	1,560	1,650	1,620	811.7	50.1%
営業利益	56.0	62.4	67.0	64.3	75.0	67.0	32.2	48.1%
営業利益率	3.8%	4.2%	4.2%	4.1%	4.5%	4.1%	4.0%	—
経常利益	57.0	61.3	68.0	69.3	—	70.0	32.7	46.7%
当期純利益	28.0	26.2	34.0	34.4	38.0	36.0	12.4	34.4%
ROE ^{※1}	6.5%	6.3%	7.1%	7.2%	8.0%	7.2%	—	—

※単位未満は四捨五入です。

※1 通期指標につき四半期／半期での算出はしません。

教育分野 実績推移／当期見通し

少子化やコロナ影響があり売上高は横ばいとなるも、事業見直しやコスト削減により増益確保の計画
 学校年度と連動する事業特性があり、例年収益とも上期偏重傾向。当期は十分な貯金ができている

単位：億円

		2021年9月期	2022年9月期	2023年9月期 見通し	2023年9月期 上期実績	進捗率 ^{※1}
売上高		789.2	781.7	798.1	401.9	50.4%
事業別	教室・塾	314.9	314.4	316.0	153.6	48.6%
	出版コンテンツ	315.3	323.7	333.6	168.2	50.4%
	園・学校	159.0	143.6	148.5	80.1	53.9%

営業利益		41.4	44.3	49.8	25.6	51.3%
事業別	教室・塾	9.3	12.7	14.1	3.9	27.7%
	出版コンテンツ	27.9	31.7	32.6	18.1	55.5%
	園・学校	7.5	3.0	4.6	4.4	95.7%
	のれん	-3.3	-3.1	-1.5	-0.8	54.0%

※小数点第2位未満は四捨五入のため、合計値が合わない箇所があります。

※1 進捗率は百万円単位で集計しています。

教育分野 Gakken2023の施策・取組進捗

新たな学びの創造と多様な学習機会の創出に挑戦したものの、次世代基幹商品・サービスの確立には至らず

○：十分に進捗
△：取組進捗も効果不十分
×：未着手/効果薄

事業	主な重点施策と期待効果	進捗	評価
教室・塾	<p>【重点施策】新たに開かれた「双方向型オンライン」市場での優位性を確立</p> <p>【期待効果】受講者層/受講講座数増加</p>	<p>複数の新サービスローンチも、利益貢献は不十分</p> <ul style="list-style-type: none"> -教室ではことばパークなどオンラインサービスが拡大基調 -塾では対面+オンラインによるアップセルに取り組む -ViSC(バーチャル・スマート・キャンパス)の展開加速 	△
出版コンテンツ	<p>【重点施策】社会人教育の体系化により人生100年時代の生涯学習環境を提案</p> <p>【期待効果】リカレント(社会人)市場開拓</p>	<p>看護師eラーニング、「地球」好調も新サービス開発に遅れ</p> <ul style="list-style-type: none"> -看護師eラーニングの契約病院は2年半で35%(619件)増 -「地球の歩き方」を中心に社会人向け実用書を拡充 -リスキリング関連書の編集体制を強化 	△
園・学校	<p>【重点施策】園現場と家庭を繋ぎ、幼児教育の質向上に寄与</p> <p>【期待効果】子どもたちの生活や行動に寄り添い、一貫性ある学びを提供</p>	<p>デジタル化に取り組むも、売上寄与は限定的</p> <ul style="list-style-type: none"> -保育ICTシステム「ハグモー」導入園も増加 -園向け物販は大部分で苦戦 	×
デジタル	<p>【重点施策】デジタル人材獲得/IT部門集約/プロダクツ拡充/Gakken IDによる商材連携</p> <p>【期待効果】お客様のライフステージに適したサービス・商材</p>	<p>デジタル人材の獲得、体制整備は順調</p> <ul style="list-style-type: none"> -学研LEAP設立。デジタル商材の企画・開発・運用を一元化 -同社のデジタル人材採用強化(設立時25名→60名体制に) -社会人向けの「Shikaku Pass」をローンチ 	△
グローバル	<p>【重点施策】グローバル人材獲得/重点事業領域/戦略地域の特定/不採算拠点の精査</p> <p>【期待効果】海外新市場の開拓</p>	<p>グローバル事業の体制構築と投資を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> -グローバル人材採用強化(幹部5名含む) -戦略領域(幼児・STEAM)、戦略地域(越・中・中東)を特定し、拠点展開とパートナーシップ締結を加速 -不採算拠点(泰・稲・馬)の撤退完了 	△

医療福祉分野 実績推移／当期見通し

コロナ影響や光熱費高騰のなかでも高い入居率を実現
 足もとでは建設費高止まりが続いているものの、着実な施設開発を進め、増収増益を見込む

単位：億円

		2021年9月期	2022年9月期	2023年9月期 見通し	2023年9月期 上期実績	進捗率 ^{※1}
売上高		657.9	722.4	758.5	380.8	50.2%
事業別	高齢者住宅	274.3	323.7	352.3	174.2	49.4%
	認知症GH	331.5	341.0	346.3	175.9	50.8%
	子育て支援	52.1	57.6	60.0	30.7	51.1%

営業利益		30.4	31.5	35.1	13.8	39.3%
事業別	高齢者住宅	12.8	14.2	17.6	4.6	26.0%
	認知症GH	22.0	20.7	20.9	10.9	52.1%
	子育て支援	0.3	1.2	1.2	0.6	52.5%
	のれん	-4.6	-4.6	-4.6	-2.3	50.2%

※小数点第2位未満は四捨五入のため、合計値が合わない箇所があります。

※1 進捗率は百万円単位で集計しています。

医療福祉分野 Gakken2023の施策・取組進捗

トップカンパニーを目指し、持続可能な街づくりに貢献するため人財・品質の向上を推進。成長基盤を確立

○：十分に進捗
△：取組進捗も効果不十分
×：未着手／効果薄

取組テーマ	主な重点施策	進捗	評価
人財	定着率向上と早期離職低減	高齢者住宅：離職率12.5%（通期目標15.0%） 認知症GH：離職率11.0%（通期目標21.0%）	△
	新規採用強化、養成事業の展開エリア拡大	介護士・保育士の養成アカデミーなど、人材紹介業者に頼らない採用チャネルの強化・確立	△
品質	DX / ICTによる効率化	介護記録電子化の全店導入について、導入率100%を達成	○
	子育て領域の幅広いサービス提供	新業態「子育てステーション」1号店開設。学童受託好調	○
	自立支援介護の普及	認知症GHで自立支援介護の導入に取り組み、導入率100%	○
	入院しない、させない看護介護	入院率2.0%を目指すも、3.2%に留まる	△
開発	営業力の強化、出店スピード加速	上期の新規出店数 [※] は高齢者住宅6（通期計画16-22）、認知症GH6（通期計画12-15）、子育て支援4（通期計画4）	○
	建物管理強化	プロパティマネジメントの全国展開を進め、順調に進捗	○
	まちづくり強化、海外展開	当上期に海外拠点を1カ所開設。複合拠点はFY2021に1カ所、FY2022に3カ所開設。	○

※ 国内のみの新規出店数です

次期中期経営計画 Gakken2026に向けて

【Gakken2023 の進捗】

- ・ コロナ禍に伴う環境激変のなかで“揺るぎない成長基盤の確立”に取り組むも、前期(FY2022)末時点で最終年見通しを下方修正
- ・ 事業面の最重要課題は教育分野の立て直しと収益力の改善
- ・ 中長期での持続的成長に向け、株主・投資家との対話も課題

【次期中期経営計画 Gakken2026】

- ・ 事業環境の変化を精査し、創業80周年に向け次世代を担う若手中心に立案中
- ・ 2023年11月頃発表予定

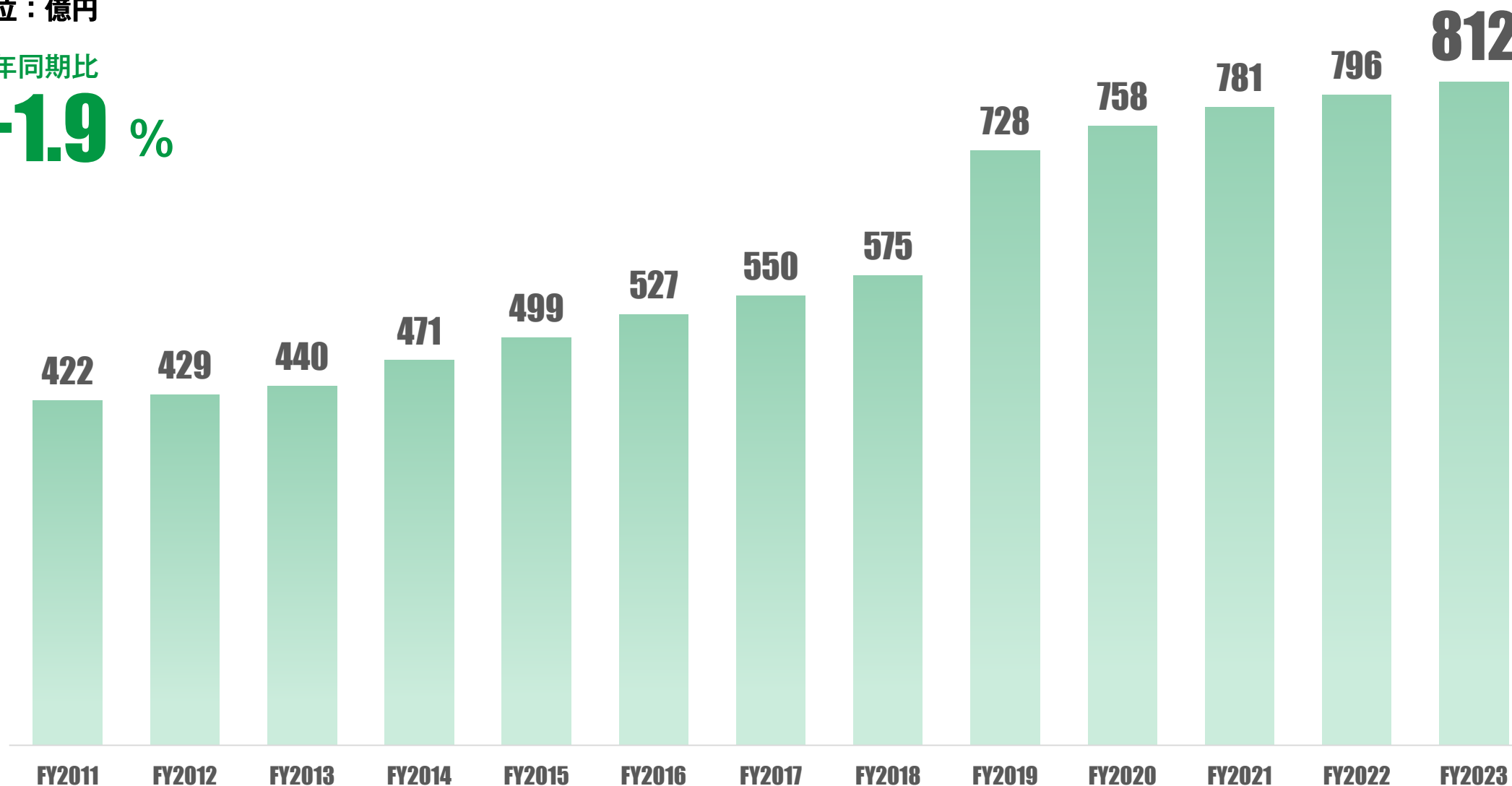
決算補足資料

上期 売上高推移

単位：億円

前年同期比

+1.9 %



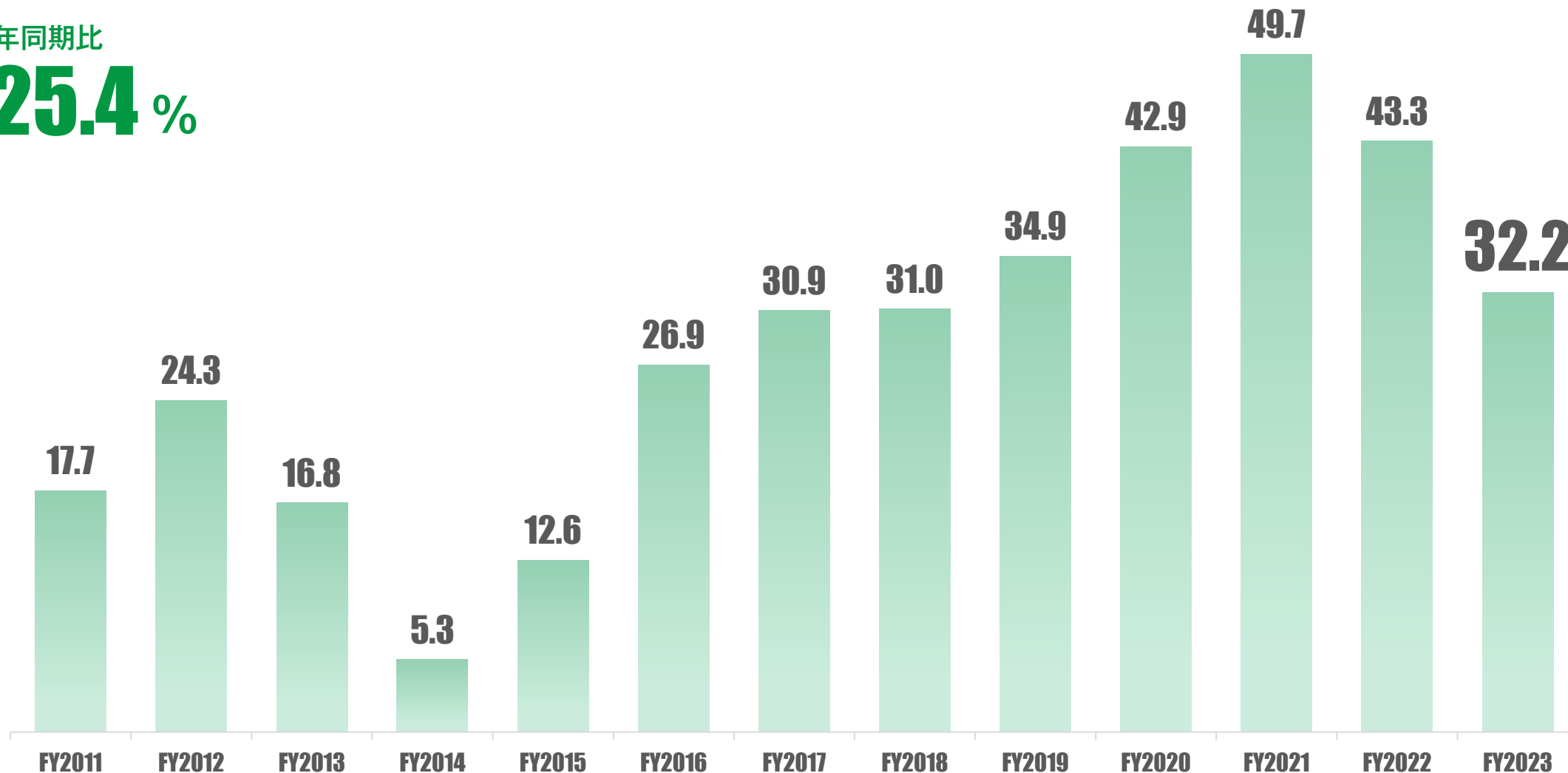
※単位未満は四捨五入です。

上期 営業利益推移

単位：億円

前年同期比

-25.4%



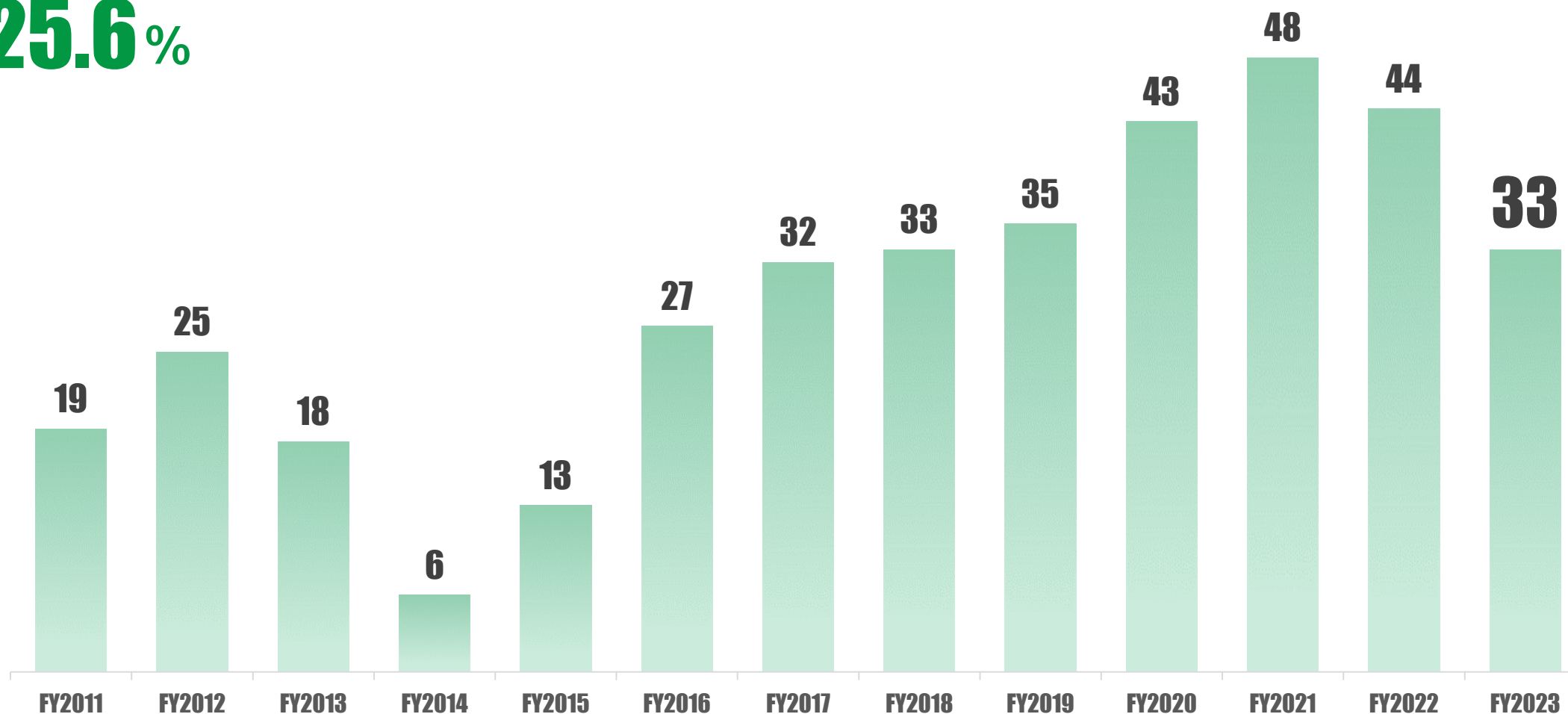
※単位未満は四捨五入です。

上期 経常利益推移

単位：億円

前年同期比

-25.6%



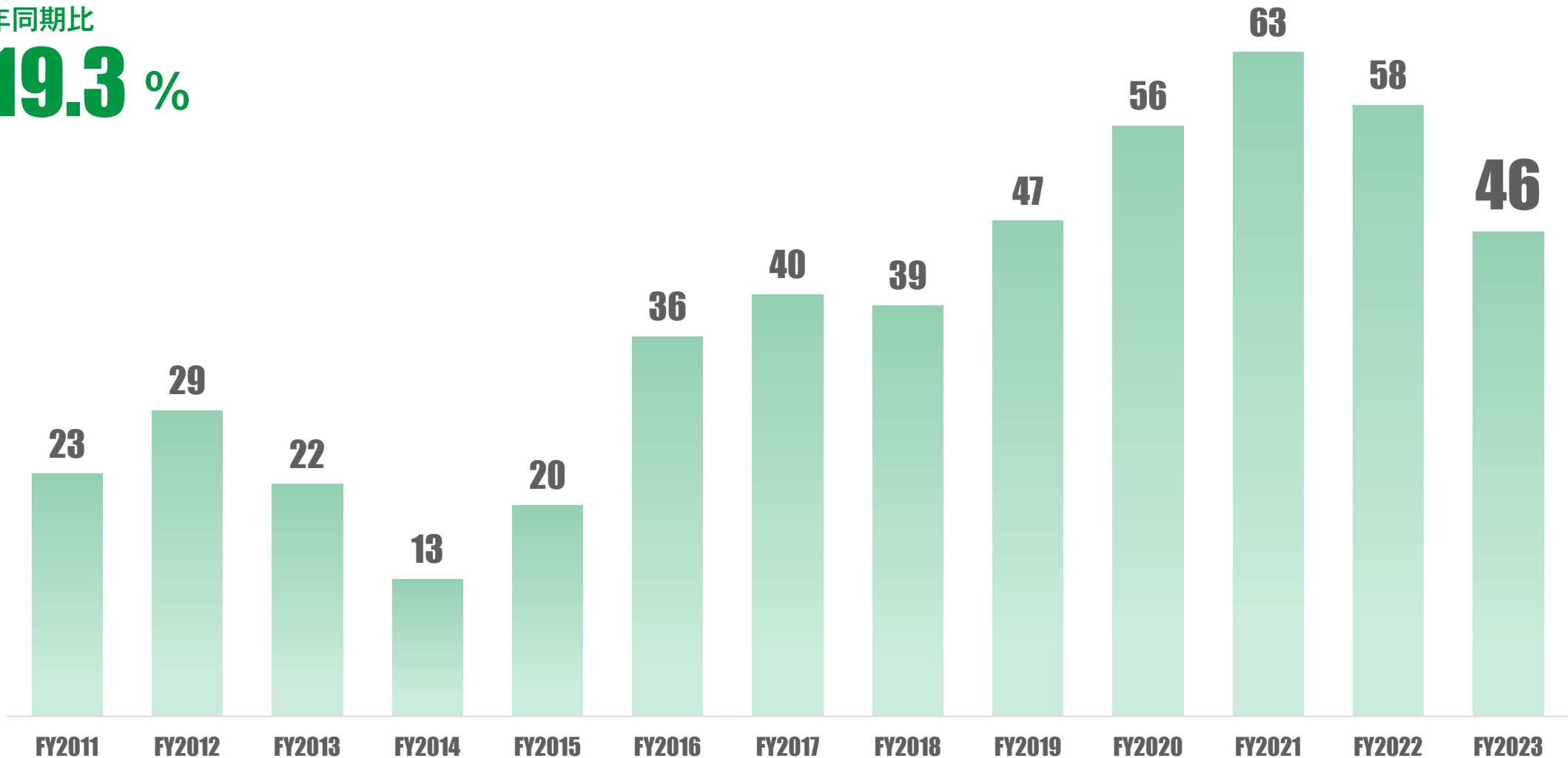
※単位未満は四捨五入です。

上期 EBITDA 推移[※]

単位：億円

前年同期比

-19.3 %



※営業利益・減価償却費・のれん償却費の合算です。

※単位未満は四捨五入です。

2023年 9月期 セグメント別 見通し

教育は社会人向け事業とDXで収益力向上。医療福祉は新規開設・コスト・品質の好バランス堅持

単位：億円

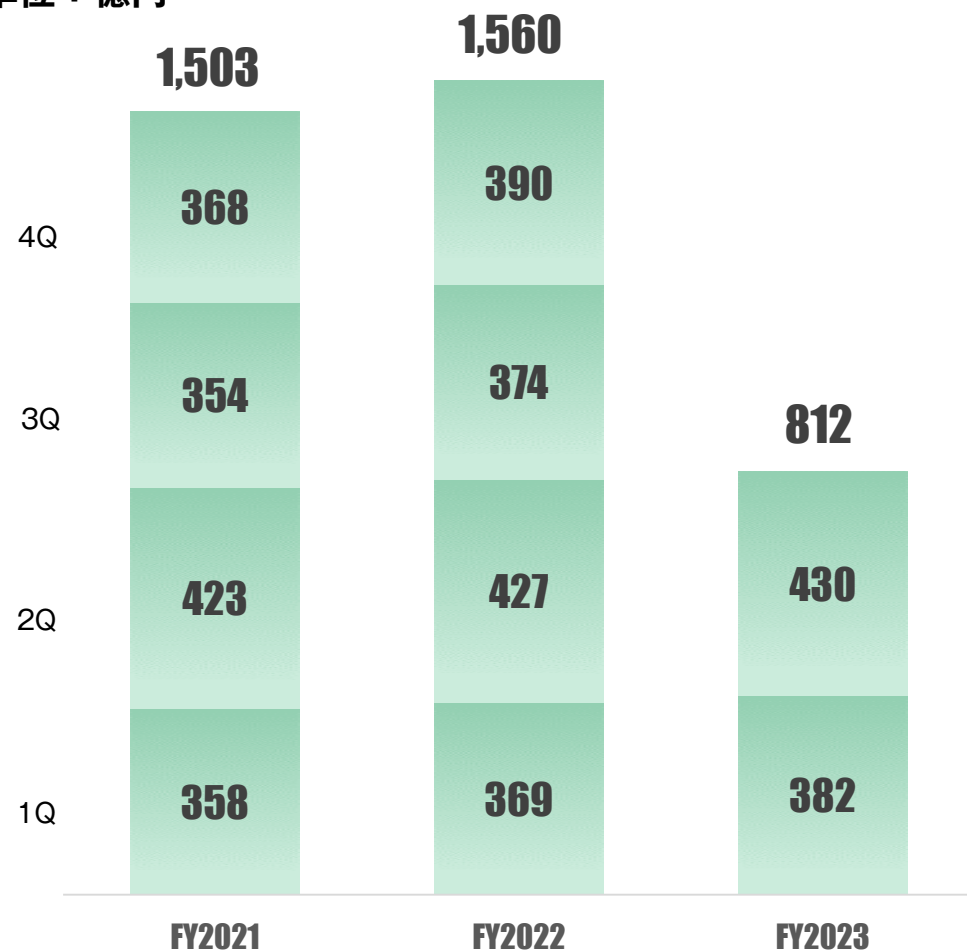
セグメント	事業	2022年9月期 実績		2023年9月期 見通し		増減 (対前期)	
		売上高	営業利益	売上	営業利益	売上高	営業利益
教育分野		781.7	44.3	798.1	49.8	+16.4	+5.6
	教室・塾	314.4	12.7	316.0	14.1	+1.6	+1.4
	出版コンテンツ	323.7	31.7	333.6	32.6	+9.9	+1.0
	園・学校	143.6	3.0	148.5	4.6	+4.9	+1.6
	のれん	—	-3.1	—	-1.5	—	+1.6
医療福祉分野		722.4	31.5	758.5	35.1	+36.2	+3.6
	高齢者住宅	323.7	14.2	352.3	17.6	+28.6	+3.4
	認知症グループホーム	341.0	20.7	346.3	20.9	+5.3	+0.2
	子育て支援	57.6	1.2	60.0	1.2	+2.4	+0.0
	のれん	—	-4.6	—	-4.6	—	+0.0
その他		56.3	8.1	63.3	4.1	+7.0	-4.0
調整額		—	-19.6	—	-21.9	—	-2.3
グループ合計		1,560.3	64.3	1,620.0	67.0	+59.7	+2.7

※単位未満は四捨五入のため、合計値が合わない箇所があります。

四半期毎 業績推移 (直近3力年)

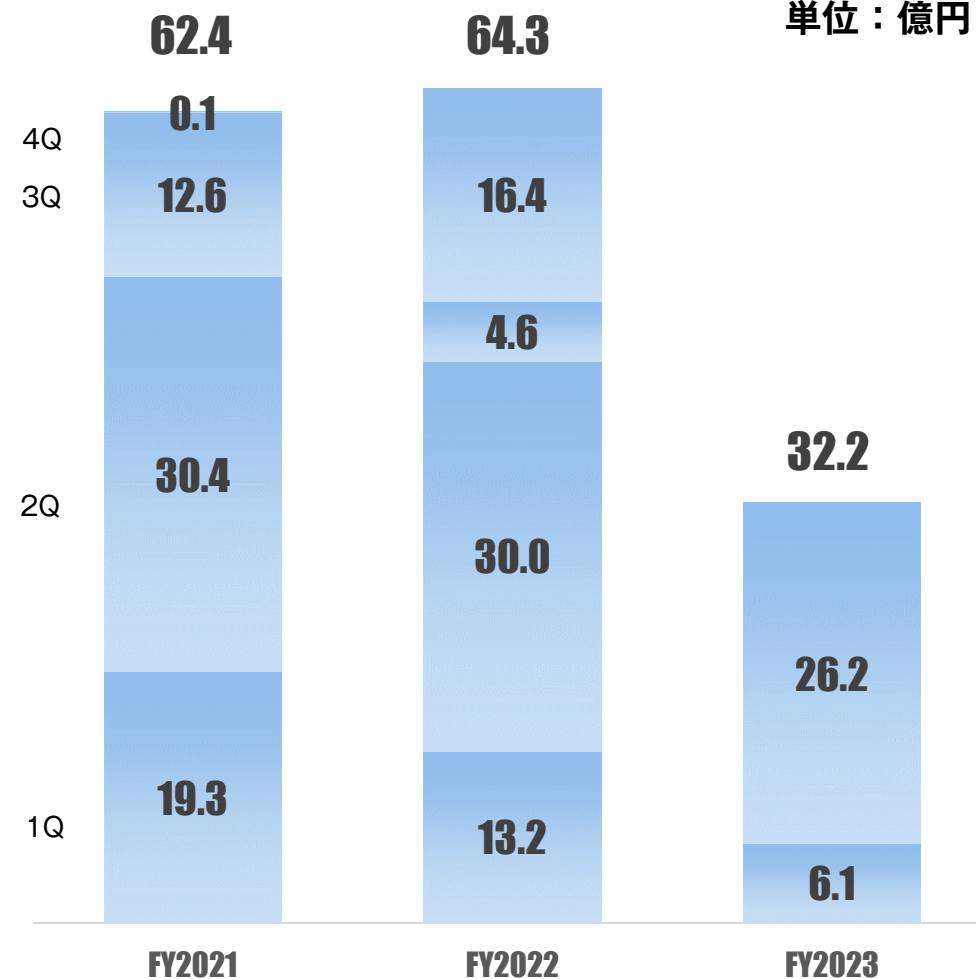
売上高

単位：億円



営業利益

単位：億円

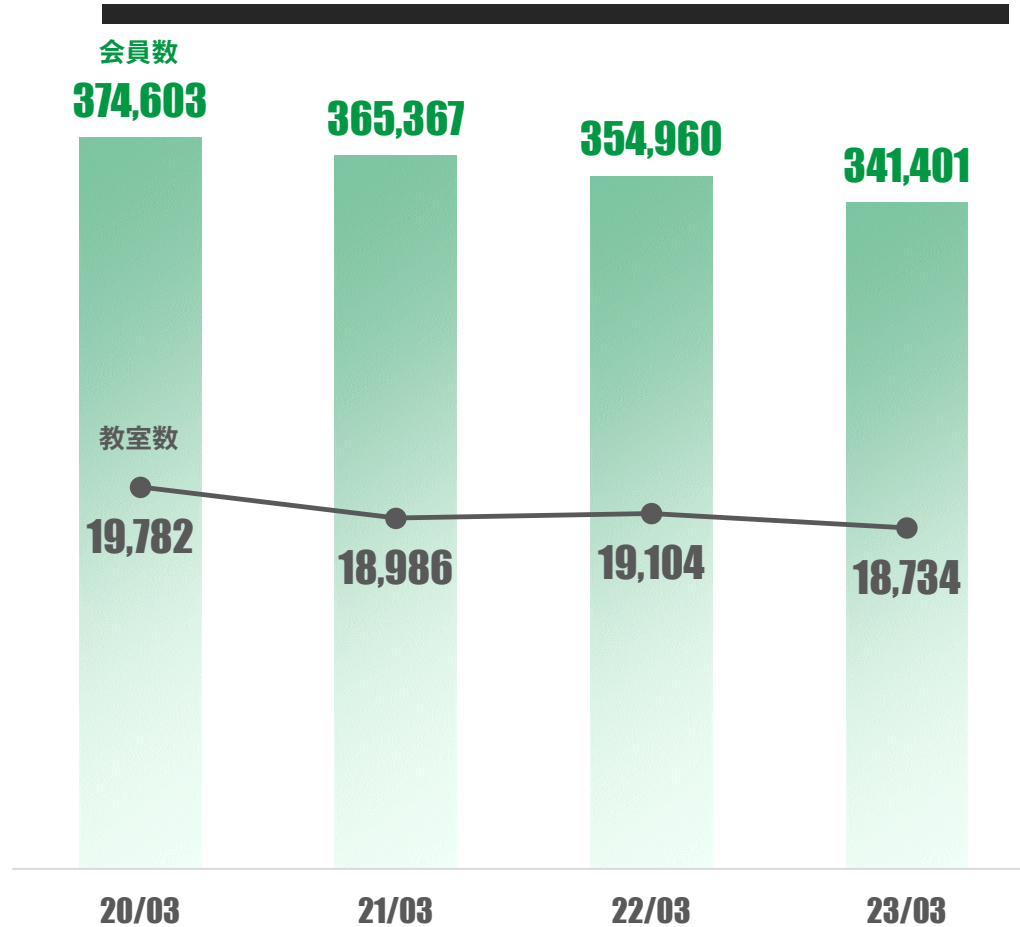


※単位未満は四捨五入です。

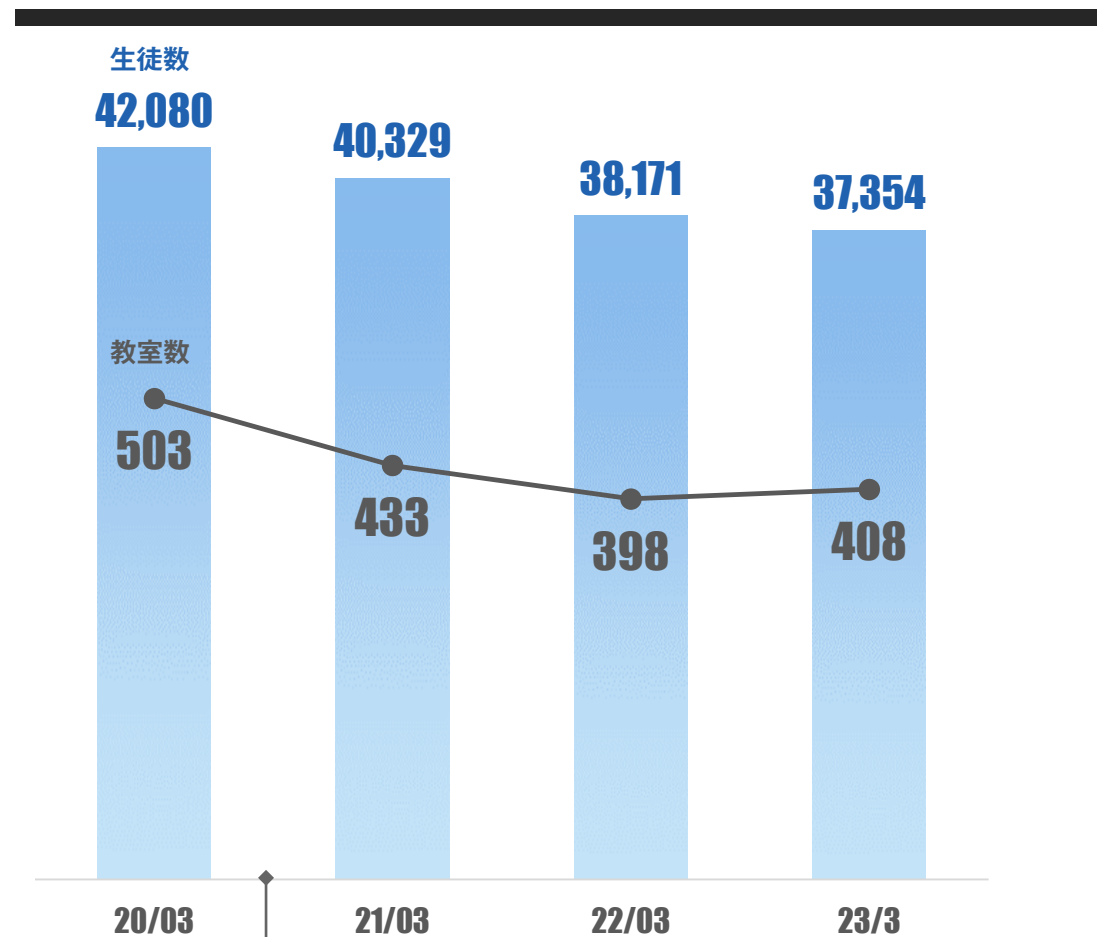
教室・塾事業 会員数・教室数

教室・塾事業とも会員数・生徒数微減傾向が続く。学研教室は新規FC教室の開拓苦戦も、幼児教室は増加し回復基調。塾はオンライン教室開設等で微増

教室



塾

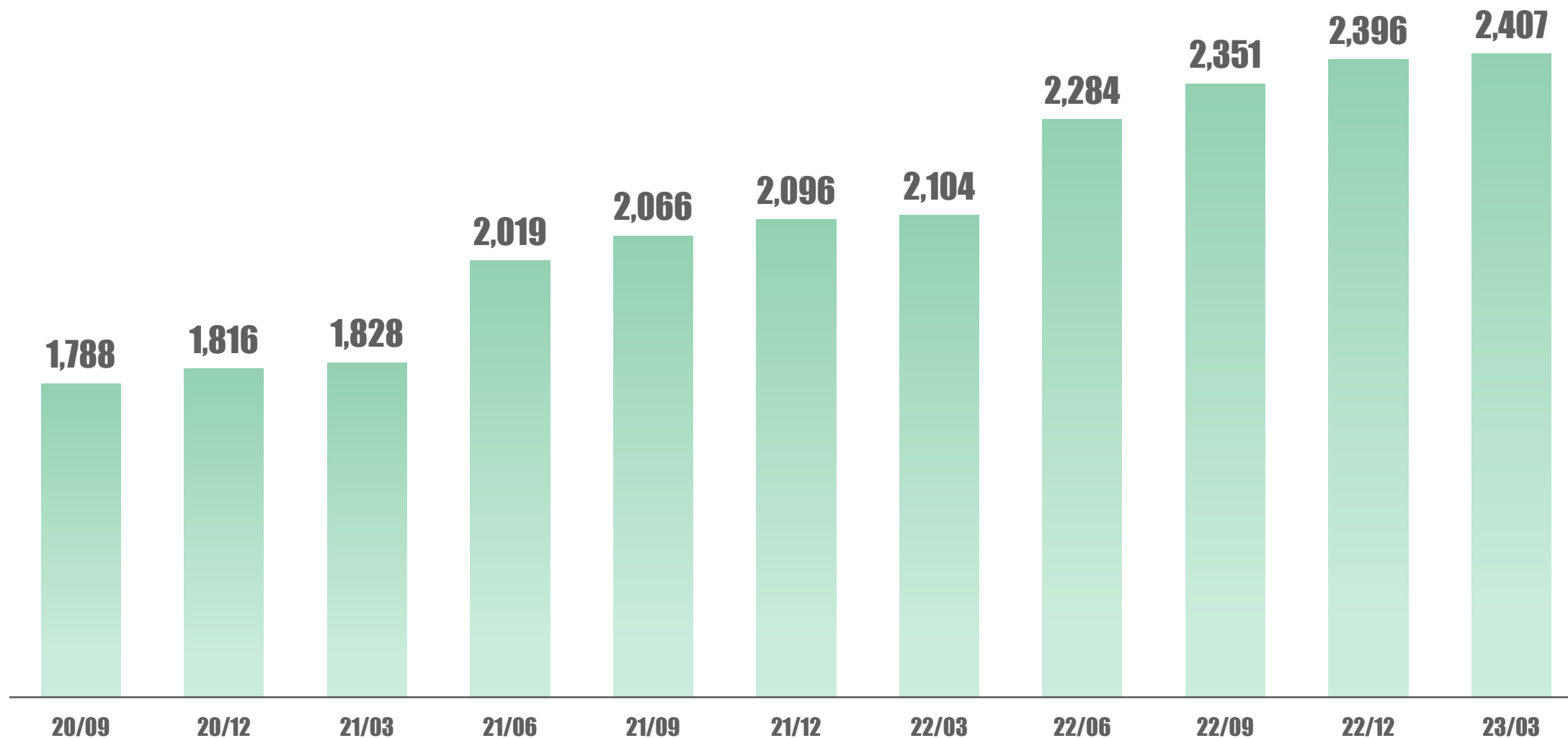


※2021年2月に学研アイズ、同3月にSIGN-1を収斂しました。

※会員数、教室数は学研教室と幼児教室の合算です。事業譲受に伴い、2020年9月以降には小学館アカデミー、2021年7月以降にはめばえ教室の実績を含みます。

医学・看護事業 看護師向けeラーニング契約病院数

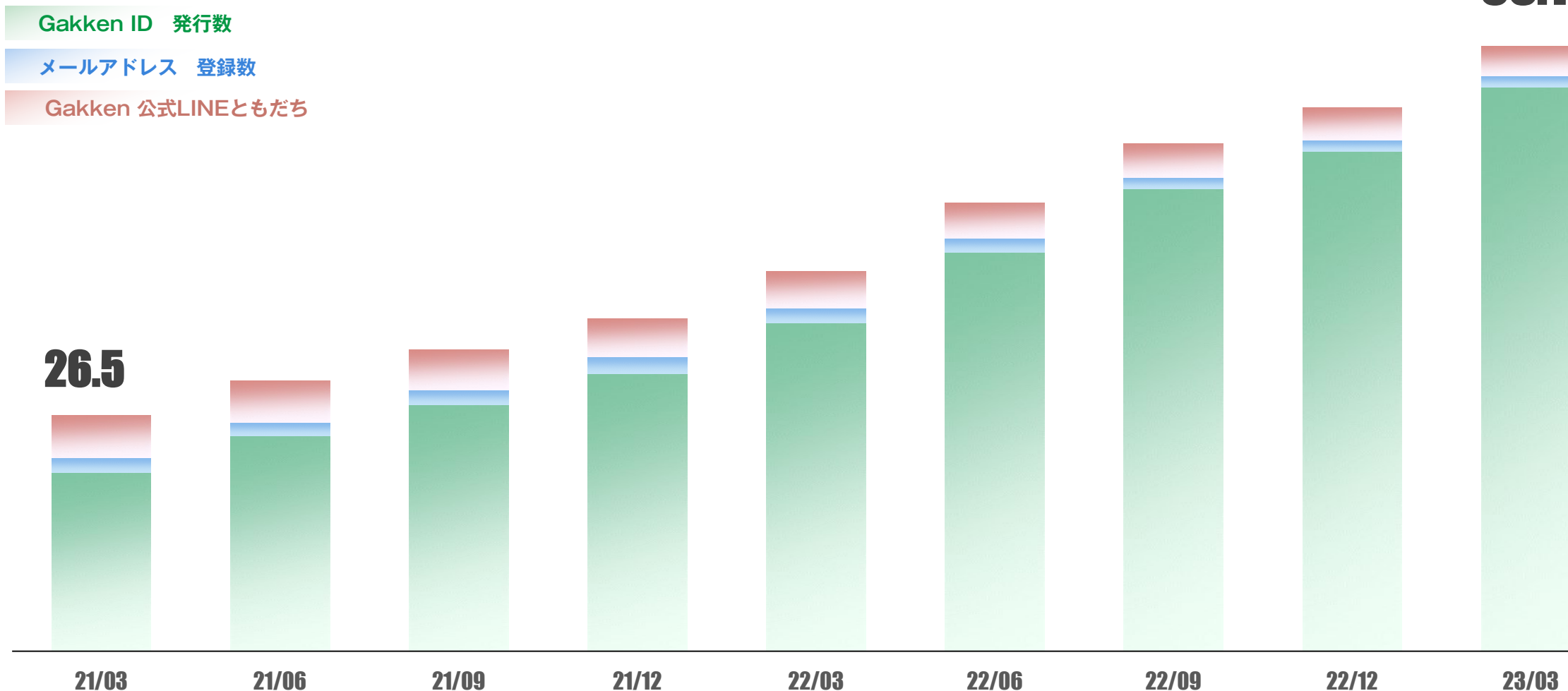
前年同期比で303病院増加。新年度利用開始に伴い3Qで大幅増となる事業特性あり



DX戦略 グループ・ダイレクト・タッチポイント

個別サービス毎のID取得は70万に迫る。サービス間の連携を進め、顧客LTV向上を目指す

単位：万件



学校事業 教科書発行スケジュール

△ 検定：文部科学省の調査（教科書としての適正性）

● 採択：所管の教育委員会による教科書の決定

◎ 使用開始：各学校に供給し、児童生徒へ

	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
小学 保健	●	◎		△	●	◎		△
中学 保体	△	●	◎		△	●	◎	
小学 道徳	●	◎		△	●	◎		△
中学 道徳	◎ △	●	◎		△	●	◎	

※教師用指導書の売上は「◎使用開始」年度に集中します。

医療福祉分野 入居率・充足率

		20/03	20/09	21/03	21/09	22/03	22/09	23/03
高齢者住宅	総戸数	6,898	7,182	7,717	8,308	9,037	9,665	9,980
	入居数	6,289	6,600	6,985	7,505	8,345	9,073	9,519
	入居率	91.2%	91.9%	90.5%	90.3%	92.3%	93.9%	95.4%
認知症グループホーム ^{※1}	居室数 ^{※2}	5,210	5,246	5,300	5,372	5,444	5,570	5,687
	入居率	97.9%	98.1%	97.6%	97.8%	97.6%	97.7%	96.9%
子育て支援施設	定員数 ^{※3}	2,497	2,788	2,788	2,661	2,664	2,721	2,721
	園児数	2,107	2,381	2,389	2,443	2,441	2,505	2,524
	充足率	84.4%	85.4%	85.7%	91.8%	91.6%	92.1%	92.8%

- ※1 認知症グループホームの運営事業会社 メディカル・ケア・サービス(株)は2021年9月期より決算期を変更しました。これに伴い2021年3月以前の実績は、9月を「8月」、3月を「2月」にそれぞれ読み替えております。
- ※2 認知症グループホームの居室数に海外および他区分施設の居室数は含まれません。
- ※3 子育て支援施設の定員数は保育所のみ。

Gakken

**Gakken Group hopes that everyone has fulfilling lives.
To this end, we provide inspiration, satisfaction, safety for today,
and dreams and hopes for tomorrow.**